

# 「生命のがん教育」を実施しました

(平成 25 年度 2 学期分)

平成 25 年度 2 学期は 6 校に出向き、「生命のがん教育」を実施しました。

## ◆授業形式

- (1) 医療従事者によるがんについての講義 (20 分)
- (2) がん経験者のお話 (20 分)

## ◆授業風景



## ◎小学校 (2 校)

実施日	実施校	学年	担当講師*
10/23 (水)	向日市立第2 向陽小学校	6	京都府健康対策課 医務主幹 堅田 和弘
12/17 (火)	京都市立静原小学校	3~6	京都府健康対策課 医務主幹 堅田 和弘

## ◎中学校 (4 校)

実施日	実施校	学年	担当講師*
11/11 (月)	舞鶴市立青葉中学校	3	京都府健康対策課 医師 堅田 和弘
11/12 (火)	舞鶴市立白糸中学校	3	京都府健康対策課 医師 堅田 和弘
11/19 (火)	平安女学院中学校	3	京都府健康対策課 医師 堅田 和弘
12/18 (水)	京都府立園部高等学校附属中学校	3	京都府医療保健対策監 横田 昇平

## <生徒の感想>

- ☆ がんはとても怖いものだった。自分の親にちゃんと定期検診に行くように言おうと思った。大人になってもタバコを吸ったり酒をたくさん飲むことが無いようにしたいと思った。
- ☆ がんは生活習慣やタバコなどが深く関わっていることが分かりました。がんになったら自分だけの問題ではなく、家族にも支えられてもらわなければいけないことが分かりました。早期発見はとても重要だと思いました。

- ◇ がんが、生活習慣病の1つなのは初めて知りました。2人に1人ががんになるというのを知って、すごく怖いと思いました。ちゃんと自分の生活習慣を見直して、がんになりにくくしようと思いました。
- ◇ 私のお父さんはたばこをたくさん吸ったり、お酒を飲んだりしているので家に帰ったら、今日聞いたことを、教えてあげたいです。
- ◇ 今日の話はとても身近な話に感じました。ガンというのは、なればほとんど治らないんだと思っていました。でも、検査に行って早く発見できれば、治るものなんだと分かりました。だから家族には定期的に検査に行くようにすすめようと思います。
- ◇ がん体験者の話を聞いてると、泣きそうになった。あの方も、まさか自分ががんになるなんて思ってなかったと思うから、あの方の立場に立ってみると、とてもつらかった。あきらめないことが大事だと教わった。
- ◇ 今、私たちは生活を家族に支えてもらって送っているため、バランスの良い食事やきちんとした生活を送れていると思います。だから、家族に感謝しなければいけないと思いました。また、そんな家族にもがんになってほしくないの、今日、家に帰ったらみんなでがんについて話そうと思いました。
- ◇ 生命のがん教育の学習をうけて、がんという病気はとても身近な病気だということが、よくわかりました。このクラスの中でも、だれかがなるかもしれないなあと思いました。でも、がんになりたくないから、好ききらいせず食べたり、たばこのけむりをすわないようにするなど、子どものときでもできることはしたいなあと思いました。そして、大人になったときは、がんになるまえに、検診にいったって、がんになっても早くにみつけるようにしたいなあと思いました。大事な人をうしなう前に、検診をすすめたいなあと思いました。お話にきていただいて、ありがとうございました。
- ◇ がんの人に対して治療を行うことはもちろん重要なことだけど、何よりも心のケア（家族や友人の声）が大切だと思いました。早期発見のための検診、そして出来る限りの予防法を僕の周りにいる人に勧めていきたいなあと思いました。最後に体験者の方が言っておられた言葉はとても心に響いてきました。それらの言葉を心のどこかに置いておき、これからの学校生活、将来に活かしていこうと思いました。
- ◇ 体験談を話してくださったお陰で、私達は「がんの現実」を深く知ることが出来ました。がんと闘うことをあきらめなかったというのが本当にすごいと思います。でもそれは、「家族」という存在があったからこそだと思います。応援してくれる、支えてくれる、必要としてくれている存在があるから、人は頑張れるんだということが改めて分かりました。私は今当たり前のように生活しています、当たり前に生活できることに感謝して生活していきたいです。

※担当講師の所属・役職は授業実施当時のものです。

「生命のがん教育」の実施を検討されている学校は健康対策課がん対策係までご連絡ください。

TEL：075-414-4766 電子メール：kentai@pref.kyoto.lg.jp